

橋本文夫 はしもと ぶんすく ドイツ語學・文學者。明治四十二年八月一日兵庫縣生れ（一九〇九—）。昭和六年東京帝國大學法學部卒、九年同大文學部獨文科卒。廣島高等學校教授、中央大學教授歴任。

譯書『デュルクハイム著『民族性と世界觀』（昭和十五年十一月二十日理想社出版部）、同『獨逸精神』（昭和十六年六月一日アリス・ナチス叢書）、同『生の論理』（昭和十六年九月二十九日理想社）、同『生活と文化』（昭和十六年十一月二十日理想社）、同・山田智二郎編『獨逸精神の造形的表現』（合譯、昭和十七年十月二十五日アトリエ社）、デュルクハイム著『マインステル・エツタハルト』（獨逸的信仰の本質）』（昭和十八年十一月十八日理想社）、同『歐羅巴文化の神髓—地球社會的考察』（昭和十九年八月二十五日六盟館）、ヘルマン・シーブツク著『ゲーテの世界觀』（昭和二十四年九月十五日理想社）、カール・ヤスヘル著『戦争の責罪』（昭和二十五十一月）、同『キリスト教』（昭和二十六年六月二十日櫻井書店）、シヨーペンハウエル著『幸福のついで—人生論』（昭和二十二年二月十日新潮社『新潮文庫』）等。

